

## 団体名

## WhyLab

## 実施内容

本事業は、地域の学生たちが身近な環境に潜む不思議に気づき、自ら探究する心を育むことを目指し、一連の体験プログラムを展開いたしました。

まず、水環境への関心の入り口として、1月と2月の第3土曜日に「Study Room by WhyLab」にて親子向けの理科実験イベントを開催しました。これに並行して、2月には実地調査に向けた備品の調達と事務局による予備実験を行い、現地での安全確保と効果的な観察手法の確立を図りました。

3月18日の本調査においては、地域の大学生を主体として、松本城のお堀や女鳥羽川を舞台にパックテストや透視度計を用いた観察を実施しました。翌19日には、まつもとホテル学会の藤山先生を講師にお招きし、前日の調査で得た気づきをもとに、水質が生態系に与える影響について考察する対談の場を設けました。

さらに、3月25日には北小松公民館の寺子屋事業と連携し、地域の子どもたちを対象とした実験教室を開催することで、より幅広い世代が地域の水の豊かさに触れる機会を創出いたしました。

## 目的

本事業は、地域の学生が身近な環境に潜む不思議に気づき、探究心や好奇心を育むことを目的としました。見慣れた風景を科学的な視点で見直すことで、日常の中に溢れる驚きや「なぜ」という問いを体感してもらうことに主眼を置いています。

実験や専門家との対話を通じ、自然環境に対する純粋な興味を深め、身の回りの事象に対して主体的に関心を持ち、探究し続ける姿勢を養うことを目指しました。

## 効果

一連の活動を通じ、参加者が「当たり前景色」を「探究の対象」として捉え直すという大きな意識の変化が見られました。当初予定していた小学生の集客に課題が生じたため、3月の本調査は大学生を主体として実施しましたが、その結果として、専門家である藤山先生との間で非常に活発かつ深い議論が交わされることとなりました。

参加した学生からは、パックテストなどの体験を通じて、目に見えない水の性質や生き物の暮らしの関係性や人や生物それぞれが考える「キレイさ」の違いについてまなび、より深く調べてみたいという意欲的な声が上がりました。

また、3月末の寺子屋事業においても、地域の子どもたちがパックテストや透視度計に目を輝かせながら取り組む姿が見られ日常の中にある不思議を解き明かす楽しさを幅広い世代に直接伝えることができました。

## 今後の課題

今回の取り組みから、子どもから大学生までが「不思議」を共有できる場の有効性が確認できましたが、今後は集客における広報活動のあり方を再検討する必要があります。1月・2月のイベントに参加した小学生親子が、3月のフィールド調査スムーズに繋がるよう、また小学生やその保護者が参加しやすいイベント形態を模索し、告知のタイミングや参加を促す導線をより工夫していく必要があります。

また、今回実施した「学生による探究」と「地域への普及」という異なる形態の活動をより密接に結びつけ、松本市の豊かな自然環境を題材とした学びの輪を広げていきたいと考えています。今後も専門家との連携を維持しながら、学生たちが自発的に「なぜ」を見つけ、探究を深めていけるような持続的な仕掛けづくりに取り組んでまいります。

## 事業実施経過

| 年月      | 実施事項  |
|---------|---|
| 令和7年10月 | 松本市若者チャレンジ応援事業補助金採択   |
| 令和8年1月  | 関連探求イベント（親子で楽しむ理科実験イベント）第1回開催   |
| 令和8年2月  | 関連探求イベント（親子で楽しむ理科実験イベント）第2回開催<br>概算払い申請 物品購入・予備実験   |
| 令和8年3月  | 「松本の身近な水ってホントにキレイ？」開催<br>まつもとホテル学会藤山会長と対談<br>若者チャレンジ応援事業補助金の報告会に参加<br>寺子屋事業（北小松公民館）で実験イベントを開催<br>水質実験を演示・体験 |